



全校集会と結び付けた取組

学校名 茂庭台小学校 氏名 佐竹 朋子 小 学校 4・5・6 年版 単元名 第2章 4 立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト P16～17 第4章 3 災害に備える P34～35 第4章 4 家族防災会議を開こう P36～37 教科・領域名 学級活動・児童会活動 時間90分	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災当時のことを振り返り、自助・共助の大切さを理解させる。 災害時に家族や地域のためにできることを考えさせる。 <p>1 全校集会「3.11 から未来へ IN茂庭台 ～災害時に自分たちができること～」の目的を知る。</p> <p>2 復興プロジェクトの意義について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私たちが取り組んでいる復興プロジェクトは、何のために行っているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 被害にあった人に、少しでも明るい気持ちになってほしいから。 地域を元気にするため。 <p>3 家庭でできることについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>家庭で自分ができることを考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 非常用持出しぶくろの消費期限の確認。 避難場所の確認。 <p>4 地域のためにできることについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域のため、他の人のためにできることはないか、考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 避難所での小さい子どものお世話。大人は忙しいので、一緒に遊んであげる。 給水車など、並んで受け取ることが多いので、お年寄りは大変。代わりに受け取って届ける。 中学生は、避難所のトイレの水をプールから運んでいた。自分にもできそう。 子供会の仲間と相談して、子どもでもできる仕事を分担する。そのまとめ役を高学年が引き受ける。 	<p>【9月11日(水)「防災を考える日」の予定】</p> <p>朝 ごみ広い活動, あいさつ運動</p> <p>1校時 4～6年 学活 ビデオ視聴他 ※「地震 あなたにできること」20分 (ビデオはメディアテークから借用)</p> <p>2校時 4～6年 道徳 「命に関すること」</p> <p>3校時 休憩時避難訓練 (予告なし)</p> <p>4校時 全校集会 児童会活動 「災害時に自分たちができること」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自校の活動だけでなく、副読本P17のような活動の紹介や、代表児童が参加した復興プロジェクトについての紹介を行った。 非常用持出し袋についての話題が出たので、その中身についてグループごとに話し合いを行い、発表した。 各家庭の常備品についても、種類や保管方法などを紹介し合った。 <p>【4年児童作文】「災害時から学んだこと」</p> <p>東日本大震災から2つ学んだことがあります。1つ目は助け合いです。電気や水やガスが使えなくなりました。学校に給水車が来たとき、前の人たちが僕を見て水をもらう量を減らしていました。僕にたくさん水をくれたのがうれしかったです。2つ目は、思いやりです。震災の日の夜に外で声をかけてくれ、とてもうれしく励まされました。次は僕が励ますことができるようにしたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスで話し合ったことを、児童主体の全校集会の中で発表した。集会には、地域の方(学校関係者評価委員)や保護者の方にも参加していただき、提案についての意見、要望、期待などを盛り込んだ内容のお話をしていた。
 	

全校集会と結び付けた取組

すばやく行動 ← 頭 → お家の人や先生の話を聞く

- 個人 → 身を守る. 正しい情報を得る (放送)
- 家庭 → 集合場所を決める
- 地域 → 周りへの気配り (声をかける) ← 地域の人から助けられた
- 笑顔TあいさつT ⇒ 助け合う **正** 自分の命
- カイ工事 (そうじ. たきだし) 給水所で
- けがの手当て 水運び 分けられた
- 家 → 高い所に物を置かない 固定する ↓ 家族にも教えてあり役に立ちたい
- 思いやりの心 → 声をかける (いけます ⇒) 次は自分から! 助けたい!